

人口問題対策に係る各広域振興局等の取組について

令和 7 年 6 月 16 日
ふるさと振興部

市町村への伴走支援について

取組状況	今後の展開
1 多様な主体との連携による社会減対策の強化 若者や女性の首都圏への転出超過に要因には、地方における性別へのアンコンシャス・バイアスが指摘されていることから、若者・女性に選ばれる地域に向け、企業等との連携によるジェンダーギャップの解消や働きやすさを形成していく取組を推進。 【課題】 ・人口減少が進行する中で、活力ある社会を形成していくためには、市町村はもとより、地域内外の多様な主体と連携した取組を展開していくことが必要。	1 多様な主体との連携による社会減対策の強化 (1)対応の方向性 ・若者・女性に選ばれる地域に向け、企業等との連携によるジェンダーギャップの解消や働きやすさを形成していく取組を推進 ・地域おこし協力隊など 地域の核となる人材の確保・育成、複業人材と企業等とのマッチングによる関係人口の拡大 (2)具体的取組 内容 ア 情報 発信・普及啓発 ・ジェンダー・ギャップの解消及び多様な職場環境づくりに向けたフォーラム（9月予定）を沿岸地域で開催するとともに、全県的な普及啓発を図るため、振興局単位での地域別分科会を実施 イ 自然減対策・社会減対策における課題分析 ・地域課題分析型少子化対策支援事業（保健福祉部）に参画するほか、国の支援を受けながら、関係部局と連携し新たに企業課題解決型社会減対策支援事業（企業向け社会減対策ワークショップ）を実施 ウ 関係人口・交流人口の拡大 ・市町村等と連携した地域おこし協力隊の合同募集説明会の開催など、地域おこし協力隊の受入拡大、活動の充実及び定着促進に向けた取組を実施 ・県外在住者に対する二地域居住・移住実践者の企画投稿を発信

市町村への伴走支援について

取組状況

2 市町村への伴走支援体制の強化

・市町村と一体となった人口減少対策を推進するため、各広域振興局に配置した**特命課長が主体**となり、広域振興局ごとの**人口減少対策関連会議での協議や市町村との個別意見交換**を実施するとともに、**令和7年度**から特命課長と連携を図りながら事業等の実務を担う**担当職員を増強**。

・地域経営推進費の県事業の「**市町村連携枠**」の増額、市町村事業の「**小規模町村支援枠**」を活用し、広域振興局と市町村が連携して人口減少対策支援等を推進。

【主な事業（市町村連携枠）】

局名	事業名	取組内容
盛岡	盛岡広域つながり強化事業	地域おこし協力隊等交流会の開催等
県南	南いわて出会い創出事業	市町等と連携した結婚支援等
沿岸	さんりく結婚応援支援事業	出会いイベントの実施等
県北	市町村人口減少対策支援事業	空き家問題を踏まえた住宅対策を講じるための調整調査の実施等

今後の展開

2 市町村への伴走支援体制の強化

(1)市町村の特性に応じた伴走支援の推進

自然減及び社会減の3本の柱などの観点を参照しながら、市町村ごとの特性に応じた伴走支援を推進

(2)国のサポートの効果的な活用

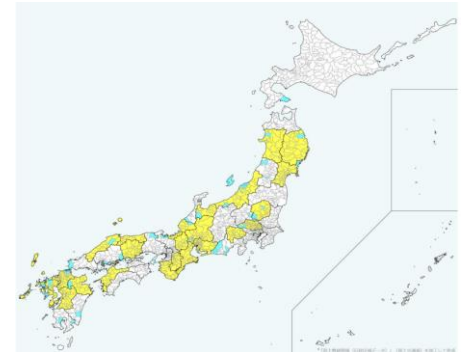
国の地方創生の取組支援や「若者・女性にも選ばれる地方」に向けた取組で得られる**知見やサポートを活かし、伴走支援を強化**。

ア「地域働き方・職場改革」の取組参加

☞取組意欲のある自治体をネットワークでつなぎ、経験・知見を共有することで職場・意識改革を加速。
(岩手県・久慈市が参加)

【主な国の支援】

- ・先行自治体の経験の共有
- ・ガイドブック、分析ツールの提供
- ・有識者の紹介



【地域働き方・職場改革】参加自治体

イ 地方創生伴走支援制度

☞各府省の本省職員がこれまでの職務経験等を活かして地方創生に携わり、課題を抱える市町村を支援。本県から大船渡市及び葛巻町が支援対象として選定。

市町村への伴走支援について

取組状況

3 小規模自治体支援への人的・財政的支援

- ・令和7年度、県から小規模町村へ、事務4名を派遣（葛巻町、西和賀町、普代村、野田村）
- ・令和6年度から、普代村及び住田町に県の保健師を週3日派遣している（住田町はR6で派遣終了）ことに加え、今年度から新たに、田野畑村に県の林学職を週2日派遣する取組を開始

【課題】

- ・市町村単独では、特に専門職員を確保することが難しい状況
- ・県においても、人材の確保が難しい職種があることから、市町村からの要請全てに応じることが難しい側面
- ・持続可能な行財政サービスの提供体制について、県と市町村がそれぞれに抱える課題を共有するとともに、その対策について連携して検討していくことが必要

【主な事業（小規模町村支援枠、予定事業を含む）】

市町村名	事業名	取組内容
葛巻町	若者関係人口創出事業	葛巻高校山村留学卒業生等の交流会を東京で開催、都市部学生を呼び込み伝統文化の継承等を支援
西和賀町	西和賀高校魅力化支援事業	総合的探究のカリキュラム「魅力発見ラボ」の実施
田野畑村	道の駅たのはた森林体験施設整備事業	道の駅の隣接地に歩道やキャンプサイト兼屋外販売ブースの基盤を整備
普代村	青の国魅力情報発信事業	テレビ放送を活用した音声と映像による村の魅力の発信
野田村	ふるさと納税広告動画活用事業	ふるさと納税PR動画をweb掲載、首都圏等におけるイベントでの移住・定住施策を含めたPRを実施

今後の展開

3 小規模自治体支援への人的・財政的支援

（1）複数市町村による共同採用

- ・市町村における採用試験の応募者の確保や県内の就業機会の増加を図るため、複数市町村による共同採用を実施
〔対象市町村〕沿岸・県北地域で実施を希望する市町村
沿岸：8市町村（宮古市、大船渡市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村）
県北：6市町村（久慈市、二戸市、普代村、野田村、九戸村、一戸町）

（2）市町村職員合同就職セミナー

- ・市町村職員を希望する学生等が、一度に複数の市町村にアプローチできる場として、県内市町村職員合同就職セミナーを実施
〔実施時期〕令和7年11月上旬～中旬
〔開催場所〕アイーナ

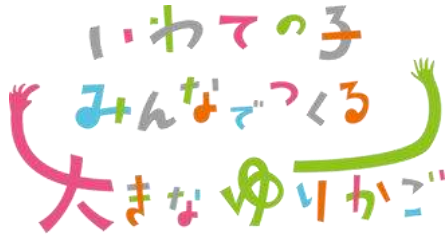
（3）市町村のインターンシップ受入支援

- ・ノウハウや人員の不足等により、インターンの受入に取り組むことが出来ない市町村があることから、手続様式の情報提供や、市町村における受入予定の取りまとめなど、インターンにおける大学や専門学校と市町村の間のリエゾン機能を構築

（4）地域経営推進費による支援

- ・「小規模町村支援枠」を増額し、市町村ごとの課題に対応した取組を財政面で強力に支援

盛岡広域振興局管内の人口減少対策

取組状況	今後の展開				
《少子化対策》 地域の状況に応じた少子化対策の推進 ◎ <u>地域課題分析型少子化対策支援事業と連携した取組</u> - 新たな少子化対策にチャレンジする意欲のある町村が、国の少子化対策地域評価ツールを活用し、<u>地域の実情に合わせた施策を展開</u>できるよう、<u>県が専門家等と連携を図りながら伴走型支援を実施</u> - 岩手町、葛巻町に係る当該事業のワークショップに、<u>振興局もファシリテーターとして参加し、課題解決に向けた支援策を検討</u> 【事業参加町村】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和 6 年度</th><th>令和 7 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洋野町、野田村、普代村、 田野畑村</td><td>岩手町、葛巻町 一戸町、軽米町、九戸村</td></tr> </tbody> </table> 【取組状況】 ○ 第 1 回（5/19）、第 2 回（6/2）地域課題分析型少子化対策ワークショップにファシリテーターとして参加。 ○ 岩手町・葛巻町の地域評価指標データを分析することなどにより、ロジックモデルを設計し、目指す姿（アウトカム）を検討した。	令和 6 年度	令和 7 年度	洋野町、野田村、普代村、 田野畑村	岩手町、葛巻町 一戸町、軽米町、九戸村	○ 引き続き、岩手町、葛巻町とともに少子化対策ワークショップに参加（ワークショップの開催：8/4、8/25、9/1、9/24 予定） ○ 今後は、地域住民のインタビュー結果などを踏まえ、<u>ロジックモデルを磨き上げ、課題解決に向けた事業化を支援</u> 
令和 6 年度	令和 7 年度				
洋野町、野田村、普代村、 田野畑村	岩手町、葛巻町 一戸町、軽米町、九戸村				

取組状況	今後の展開
《社会減対策》 いわてとのつながりの維持・強化（地元定着、U・Iターン） ◎ 広域インターンシップの枠組みを活かした地元定着の取組の強化 地経費 新規 【取組の背景・分析結果】 ・ 盛岡広域圏インターンシップの取組を強化したいとの市町のニーズあり ・ インターンシップ先と就職先を調査したところ相関が低いことが判明した ・ これまでのインターンシップの受入れ方に課題も見えた一方で、効果的な取組を行っている企業や、地域が一体となった取組で成果を挙げている事例があったこと これらを踏まえ、広域インターンシップ協議会の中に研究会を立ち上げ、分析結果の共有や展開方向の検討を行い、以下の3つの柱を推進 【取組の3つの柱】 ① 高校生の広域インターンシップ参加企業向けの取組強化（企業向けセミナー・ワークショップなどの実施） ② 「地域と連携した好事例」の横展開（八幡平市商工会と平舘高校の取組の横展開） ③ 学校との連携（学校側との意識の共有） 【取組状況】 ○ 広域インターンシップ協議会の中に研究会を立ち上げ（令和7年2月） ○ 企業向けセミナー（7/3）等の実施に向けた調整 ○ 管内企業及び管内高校への訪問時に、盛岡広域圏高校生インターンシップ事業を周知	○ 企業向け高校生インターンシップセミナーの開催（7/3） ・ 高校生インターンシップに特化しているコンサルを招き、取組のポイントの講演や、効果的なインターンシッププログラム作成ためのワークショップを実施 ・ 併せて、県内で働きやすい職場づくりに取り組むことで、採用にもつなげている企業からの講演を実施  夏休みに行われるインターンシップに活かしてもらう ○ 市町・団体向けに、地域と連携した好事例の横展開を図るセミナー開催（11月予定） ○ 高校教員との意見交換会の開催 広域インターンシップ協議会の中に研究会を立ち上げ インターンシップ先と就職先の相関分析結果などに 基づく課題の共有・展開方向の検討 ↓ 下記3つの柱の取組を市町と連携し推進 ① 広域インターンシップ参加企業向けの取組強化 ② 「地域と連携した好事例」の横展開（市町・団体向け） ③ 学校との連携 ↓ 事例研究や専門家セミナー、教員との意見交換会 などを実施

取組状況	今後の展開
地域の魅力や価値の発信による交流人口、関係人口の拡大 ◎ 就業体験などによる滞在型関係人口の創出 広域 新規 【検討の経緯】 - 島根県海士町の「滞在人口」から移住につなげる取組や、他県の「転職なき移住」の取組などを参考としつつ、市町のニーズ（特定地域づくり事業協同組合への重点的取組や農業の事業承継の推進など）を踏まえ、地域の特性を活かした「滞在型関係人口」の創出を推進 【事業の仕組み】 - 各市町のお試し居住施設を拠点とした滞在型の就業体験（特定地域づくり事業協同組合・農業などの就業体験、ワーケーション、地域課題解決活動など）を支援（旅費補助） - まずは「来てもらう、体験してもらう」ことが重要であることから、希望日程に柔軟に対応するコーディネートを実施 - 市町と連携し、（複業組合の就業体験など）新たな受入れプログラムの構築や既存プログラムのアレンジを行う - 移住サイトでの募集、移住相談会参加者、山村留学卒業生への働き掛けやつながりのある団体の受入れ ↓ 各市町（特に小規模町）への将来の移住をはじめ、二地域居住、サテライトオフィス誘致等につなげる <pre> graph LR subgraph 募集 A[・移住サイト ・移住フェア ・移住相談会] B[首都圏での島根県山村留学卒業生等交流会] end subgraph 対象 C[地方暮らしに関心がある人] D[管内出身者やゆかりがある人] E[市町とのつながりがある企業等] end subgraph サポート F[お試し住居などを拠点に] G[ワーケーション、テレワーク] H[地域課題解決活動] I[地域の特徴を活かした就業体験 (特定地域づくり事業協同組合、農業など)] end A --> 対象 B --> 対象 対象 --- コーディネート コーディネート --- サポート </pre>	○ 募集状況・反応 5/20専用サイトを公開し募集開始（今後、移住サイト「SMOUT」にも掲載） 6/1「テーマから探す！移住フェア」（東京）に出展 → ブース来場者52人（20～40代女性22人） 葛巻町特定地域づくり事業協同組合に数人が関心 今後、希望に沿った就業体験の実現に向け個別のアプローチを丁寧に実施していく ○ 今後の展開 7/5葛巻高校山村留学生等交流会（東京）の参加者へのアプローチ 7/13東北移住&つながり大相談会（東京）へ出展 9/13管内8市町移住相談会（東京）での募集 など

取組状況	今後の展開
多様な雇用の創出、労働環境と所得の向上 ◎ ジェンダーギャップの解消に向けた取組 新規 ・ 広域インターンシップ参加企業を中心に、ジェンダーギャップ解消など働きやすい職場環境づくりに関する企業向けセミナーを実施 地経費 ・ 「リトルもりおか」メンバーからの意見をもとに、ジェンダーギャップの解消をはじめとする人口減少対策に関する施策立案にも取り組む 地経費 ≪参考≫実践企業（信幸プロテック株）の取組事例 ・ 短時間勤務制度・リモートワーク導入 ・ 男性の育休取得を後押し ・ 「カエル会議」※で洗い出した課題の解決に向けた働き方見直し活動の実施（重複業務の解消、スキルアップ勉強会、ライフビジョンシート発表 等） ※ 早く「帰る」、仕事のやり方を「変える」、そして人生を「変える」の3つの意味が込められた会議 信幸プロテック株 (いわて働き方改革 AWARD2018 個別プロジェクト賞) 【取組状況】 ○ 企業向けセミナーにおける優良事例紹介企業の選定、依頼 ○ 10/25、東京八重洲の移住・交流ガーデンでリトルもりおかとの意見交換会の開催が決定 ○ 盛岡市をはじめ、関心のある管内市町に対して上記意見交換会の実施について情報提供	○ 企業向けセミナーの実施 7/3 に開催する企業向け高校生インターンシップセミナーの中で、ジェンダーギャップ解消など働きやすい職場環境づくりに関する取組を実践している企業（左欄参照）による優良事例を紹介 ○ リトルもりおかとの意見交換 ・ 若者の声を施策に反映 10/25に東京でジェンダーギャップの解消に向けた意見交換を実施し、次年度の取組へ反映していく ・ 管内市町への展開 管内市町もジェンダーギャップ解消への意欲があることから、意見交換の内容を共有していく

取組状況	今後の展開
市町村との一層の連携の強化 1 地域課題分析型少子化対策支援事業と連携した取組【再掲】 岩手町、葛巻町に係る当該事業のワークショップにファシリテーターとして参加し、専門家等と連携して伴走型支援を実施し、課題解決に向けた支援策を検討 新規 2 地域経営推進費市町村連携枠及び地域経営推進費小規模自治体支援事業を活用し、市町と連携した人口減少対策を実施 3 管内8市町人口減少対策担当課長会議等による情報提供・意見交換を定期的に実施し、地域特性に応じた対策を検討し、引き続き事業化を支援 【取組状況】 ○ 第1回（5/19）、第2回（6/2）地域課題分析型少子化対策ワークショップにおいて岩手町・葛巻町の地域データから課題を明確化し、方向性を確定 ○ 7/5に葛巻高校山村留学生交流会の開催が決定。葛巻町と開催概要や募集の進め方など開催準備を支援	○ 引き続き、岩手町、葛巻町とともに少子化対策ワークショップに参加（再掲） （ワークショップの開催：8/4、8/25、9/1、9/24 予定） ○ 小規模自治体支援（地域経営推進費） 7/5に葛巻高校山村留学生を含む首都圏で活動している卒業生等を対象とした交流会を東京都で開催 地経費 【小規模】 新規 ○ 管内8市町との連携 7月上旬に人口減少担当課長会議を開催し、県と市町の施策を共有するとともに、連携した対策を引き続き検討

取組状況	今後の展開
《少子化対策》 地域の状況に応じた少子化対策の推進 「i-サポ」の認知度向上に向けた取組の実施及び出会いや結婚を応援する社会的気運の醸成 - 管内市町と連携したPR（広報紙や市町のLINEによる発信など） 【取組状況】 - PRの実施に向けて準備・調整（令和6年度） - 管内市町あて「i-サポ」の広報依頼（7/18） 「i-サポ」運営委員会への出席（7/17、3/24）  	- 管内市町と連携したPRの実施 - 主催する各種行事やイベント、会議及び研修におけるパンフレット配布 - 盛岡地区福利連絡協議会において、管内市町に「i-サポ」の利用促進について協力を要請
- こども家庭センターの設置等 未設置の市町に対して設置に向けた支援を実施 - いわて子育てにやさしい企業等の認証 - 食品衛生責任者実務講習会等において事業者へ周知（毎月1回） - 社会保険労務士会等へ協力要請（随時） - 子どもの学習・生活支援事業 - 令和7年度は、学習会実施回数合計190回以上、380時間以上の実施を予定（参考：令和6年度は登録者数70名、学習会実施回数合計190回、380時間実施※見込）  【取組状況】 - こども家庭センターの設置等への支援（設置状況：3市町（盛岡市・滝沢市・矢巾町））市町子育て支援担当者連絡会議の開催（5/24、10/15） - いわて子育てにやさしい企業等の認証 食品衛生責任者実務講習会において事業者へ周知（4/24、5/24、6/19、7/24、9/26、10/23、12/18、1/22、3/18） 社会保険労務士会等へ協力要請（令和6年5月、制度の案内） - 子どもの学習・生活支援事業 - 一般社団法人ふたばに委託。関係機関に対し協力依頼文書を通知（R6.5.16） - 連携強化のため、局と受託者で、実施する管内5町の役場を訪問（年2回実施）	- こども家庭センターの設置等 未設置の市町に対して設置に向けた支援を引続き実施 - いわて子育てにやさしい企業等の認証 - 食品衛生責任者実務講習会等において事業者へ周知（毎月1回） - 社会保険労務士会等へ協力要請（随時） - 子どもの学習・生活支援事業 令和7年度は、学習会実施回数合計190回以上、380時間以上の実施を予定

取組状況	今後の展開
《社会減対策》 いわてとのつながりの維持・強化（地元定着、U・Iターン） ○ 学生等を対象とした企業見学、体験学習の実施 〔産業全般〕 【大学生】 ・ 高等教育機関と連携した学生と県内 I T 関連企業とのマッチングガイダンスの開催 ・ 企業の経営者や若手社員等との交流会の実施 【高校生】 ・ 出前授業、工場見学の実施 ・ 企業の経営者や若手社員等との交流会の実施 【保護者、教員】 ・ 保護者や教員を対象とした企業見学や企業との交流会の実施 大学生と社会人との交流会 保護者・教員企業見学会 【取組状況】 ○ 大学生 ・ I T 関連企業とのマッチングガイダンス（7月～）に向けて調整 ・ 令和6年度は動画配信によるマッチングガイダンス（配信期間：1/14～2/28）や「本音カフェ」（2回）を実施 ○ 高校生 ・ 管内高校のニーズに沿った企業見学の実施（5/27、6/6） ・ 令和6年度は出前授業3件、企業見学・ガイダンス23件を実施 ○ 保護者、教員 ・ 管内高校のニーズに沿った企業見学の実施（6/9）、小・中学校教員を対象としたキャリア教育研修（8月）に向けて調整 ・ 令和6年度は企業見学4件を実施	○ 大学生 ・ マッチングガイダンスの開催 ・ 学生と社会人との交流会「本音カフェ」の実施 ○ 高校生 ・ 出前授業、工場見学の実施（7件予定） ・ 企業の経営者や若手社員等との交流会の実施（企業ガイダンス、高大連携授業）（6月以降9件予定） ○ 保護者、教員 ・ 企業見学や研修の実施

取組状況	今後の展開
〔農業〕 ○ 盛岡地方の農業人材確保 地経費 ・ 県内外の就農相談会における就農相談対応 ・ 農業情報発信サイトを活用した新規就農事例紹介や市町の支援情報の発信 ・ 市町、関係機関の就農支援担当者を対象とした「就農相談スキル向上研修会（経営継承支援等）」の開催 ○ 中学生を対象とした出前授業の実施 地経費 一部新規 - 中学生を対象としたスマート農業技術等の出前授業の実施 ○ 農業教育機関等と連携した担い手の確保 - 就農を希望する県立農大生等を対象とした盛岡地方の農業や就農支援情報をPRする学習会の開催 中学校での 出前授業   「マイナビ農業」 での情報発信 【取組状況】 ○ 「中学生を対象とした農業出前授業」の実施に向けて中学校と打合せ（5/29）（6年度実績） ○ 就農相談会での相談対応：盛岡市（2回、計11人）、東京都（1回、18人） ○ 情報発信：盛岡市及び矢巾町の就農事例及び支援情報発信 ○ 就農相談スキル向上研修会（関係機関・団体の担当者対象、参加者20人） ○ スマート農業学習会等（中学校3校参加者のべ242人） ○ 農大生と先輩農業者等との懇談会（参加者農大生13人）（6年度成果） 新規就農者数 73人（速報値）	○ 農業人材確保 ・ 就農相談会における相談対応 〔県内〕新農業人フェア in いわて（8/24（日）、1/10（土）） 〔県外〕新・農業人フェア（東京都）（9/15（日）） ・ 記事作成（滝沢市、葛巻町）及び公開 ・ 就農相談スキル向上研修会の開催（7～8月予定） ○ 出前授業 - 中学生を対象としたスマート農業出前授業の実施（10～11月予定） ○ 農業教育機関等との連携 - 農業大学校を会場とした先輩農業者等との懇談会の開催（時期調整中）

取組状況	今後の展開
〔林業〕 ○ 新規就業者の確保 地経費 - 盛岡農業高校の生徒を対象とした林業事業体の仕事紹介 - 盛岡農業高校の生徒を対象とした安全伐倒競技会（高校生の部）実施による林業就業に対する動機形成 - 盛岡農業高校、県立産業技術短期大学の生徒を対象とした林業現場見学会の実施 - 小中学生を対象とした木育及びセーザイゲーム等を通じた体験学習の実施  小中学生を対象とした体験学習  林業事業体の仕事紹介  林業現場見学会 【取組状況】 ○ 事業実施に向けて調整（6年度実績） ○ 盛岡地域材利用促進意見交換会（R6. 11. 22 開催） ※事業体のお仕事紹介、セーザイゲームを通じた製材業の体験学習 盛岡農業高校1年生20名が参加、3年生2名が見学 ○ 安全伐倒競技会（R6. 12. 4-5 開催） 盛岡農業高校2年生8名が出場、1年生22名が見学	○ 林業お仕事勉強会 盛岡農業高校1年生を対象とした仕事紹介、セーザイゲームを通じた体験学習（8月～10月） 小中学生を対象とした体験学習（10月～3月） ○ 盛岡地区安全伐倒競技会 高校生の部（盛岡農業高校2年生）：9～11月競技練習、11月競技会 ○ 林業現場見学会（12月予定） 盛岡農業高校、県立産業技術短期大学校生徒を対象に川上から川下までの現場見学

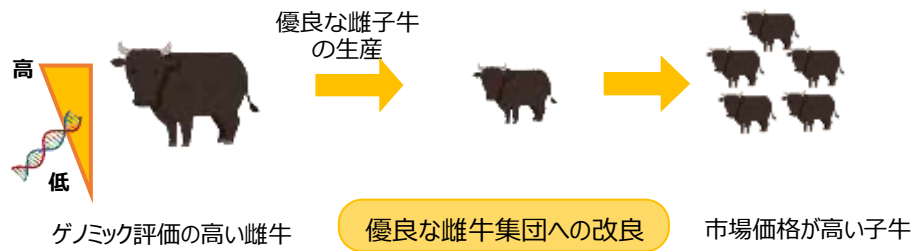
取組状況	今後の展開
〔建設業〕 ○ 中学生及び保護者・教員を対象とした建設現場見学と体験学習の実施（ICTを活用した重機・ドローン体験、DX技術体験、管内建設業紹介等の出前授業等） 中学生が職業体験で、デジタルトランスフォーメーションの導入が進む建設業界を体験...   建設業 体験学習 【取組状況】 ○ 建設現場見学と体験学習の実施に向けて調整 ・ 令和6年度は12校で開催 ・ 令和7年度は12校と調整中、うち8校の実施日を決定 ・ 体験学習の新たなメニューとして、「除雪機械操作体験」を実施予定 ○ 盛岡工業高校の生徒を対象とした女性技術者（いわて女性の活躍促進連携会議「けんせつ小町部会」）とのワーク・ライフ・バランスやキャリアアップについての意見交換会の実施 ○ 大学生を対象とした出前授業（当局職員、管内の建設コンサルタント及び建設会社の技術者を講師とし、各企業の業務内容や最新技術、建設業の魅力について情報発信等）の実施 【取組状況】 ○ 出前授業の実施に向けて調整 ○ 講師及び実施日を決定（7/14）	○ 建設現場見学と体験学習 ・ 残る4校と日程及び内容を調整 ・ 報道機関への情報提供を行い、新聞・テレビによる広報を依頼予定 ○ 意見交換会 ・ けんせつ小町部会と連携し、2月に実施予定 ○ 出前授業 ・ 7/14に岩手大学理工学部で実施予定

取組状況	/今後の展開
〔医療・介護〕 ○ 管内中学生を対象とした進学・就学の動機付けを行う出前講座（講師：医師、看護師、介護士等）の実施  安代中学校出前講座 【取組状況】 ○ 出前授業の実施に向けて調整（6年度実績） ○ 岩手町立一方井中学校（6/18）出前講座実施 ○ 八幡平市立安代中学校（7/3）出前講座実施 ○ 盛岡市立土淵中学校（7/4）出前講座実施 ○ 盛岡市立北陵中学校（9/9）出前講座実施	○ 出前講座 令和7年度は7校での実施を予定（盛岡市4校、滝沢市1校、八幡平市2校）
○ 管内8市町移住相談会の開催 地経費 【連携】 管内8市町と連携して東京で移住相談会を開催 【取組状況】 ○ 委託事業選考委員会を開催し、委託事業者を決定 ○ 9/13に移住相談会の開催が決定	○ 管内8市町移住相談会 圏域の魅力を伝える効果的な方法を分析し、管内への移住を考える人や関係人口に向けて、市町の移住関連情報を発信

取組状況	今後の展開
地域の魅力や価値の発信による交流人口、関係人口の拡大 【関係人口の創出】 ○ 首都圏の若者コミュニティ「リトルもりおか」との意見交換会の開催 地経費 【連携】 「リトルもりおか」メンバーからの意見をもとに、ジェンダーギャップの解消をはじめとする人口減少対策に関する施策立案に取り組む 【取組状況】 ○ 10/25、東京八重洲の移住・交流ガーデンで「リトルもりおか」との意見交換会の開催が決定 ○ 盛岡市をはじめ、関心のある管内市町に対して上記意見交換会の実施について情報提供（令和6年度実績） ○ 「リトルもりおか」メンバーと人口減少対策に係る意見交換を実施（12/15）	○ 若者の声を施策に反映 ジェンダーギャップの状況やその解消に向けた方策について意見聴取し、次年度の取組へ反映 ○ 管内市町への展開 ジェンダーギャップ解消に向けた意識を共有するとともに、市町の人口減少対策の施策立案へつなげる
○ 地域おこし協力隊などのネットワークづくりによる定着促進 地域おこし協力隊等交流会の開催 地経費 【連携】 ・ 地域おこし協力隊の活動分野ごとに意見交換を行い、ネットワークづくりを図る ・ 交流の深化により、活動が相乗効果をあげることも期待 【取組状況】 ○ 管内市町を訪問し、開催の周知と参加者募集の協力を要請 ○ 交流会のファシリテーターを選定し、内容について意見交換を実施（令和6年度実績） ○ 圏域に居住する移住者交流会を3回開催したほか、地域おこし協力隊及び協力隊OB・OGの交流会を開催し、ネットワークづくりに貢献	○ 地域おこし協力隊等交流会 地域おこし協力隊員（経験者含む）の活動内容を把握した上で効果的なテーマを設定し、交流を更に深化

取組状況	今後の展開
【交流人口】 ○ 県内酒造会社の4割が立地する県央圏域の地域資源である酒造り文化を活かした滞在・周遊型観光の推進によるN Y T効果の圏域への波及 ・ 「いわて酒ノ宴 2025in もりおか」の開催 地経費 【連携】 いわて酒ノ宴や岩手の酒のブランド化（G I）を絡めた旅行商品の造成と定番化の推進、J R山田線の利用促進と連動した企画の実施 《参考》「いわて酒ノ宴 2024in もりおか」開催実績 開催日：10/5（土）・10/6（日）来場者 17,000 人 出 店：酒造会社 26 社（うち管内：日本酒 9 社、ビール・ワイン等 9 社）  いわて酒ノ宴 2024in 盛岡 【取組状況】 ○ 盛岡広域元気まると発信事業実行委員会総会で「いわて酒ノ宴 2025in もりおか」（10/4（土）・10/5（日））の開催を承認（5/16） ○ J R宿泊パック商品造成・販売、J R山田線を活用したハッシュタグキャンペーン、W E B広報の実施に向けた調整	○ 「いわて酒ノ宴 2025in もりおか」開催に向けた関係団体（盛岡市、盛岡商工会議所）との調整、出店者募集、出店者向け説明会の開催 ○ J R山田線の利用促進との連動 「酒ノ宴 2025」と連携した J R 宿泊パック商品の造成や公共交通機関（J R 山田線）を活用した誘客促進、W E B 広報等による情報の発信

取組状況	今後の展開
○ 教育旅行誘致 【国内】 盛岡の歴史的街並みや生活文化等を題材とした学習教材「探究学習ノート」を活用した教育旅行の誘致促進 地経費 【台湾】 管内高校との学校交流のマッチングや事前学習の支援など受入態勢の整備・充実 広域 ○ 秋田県際連携 広域 鹿角地域振興局と連携した観光キャンペーン（デジタルスタンプラリー）等の実施 ○ 局公式X「おでんせ！情報発信局」による観光情報、食、伝統文化の情報発信  【取組状況】 ○ 教育旅行誘致 ・ 令和6年度は、北海道、仙台、東京の説明会への参加及び会社訪問を実施 ○ 秋田県際連携 ・ デジタルスタンプラリーの実施に向けて調整 ・ 令和6年度は、7/20～11/4 実施 ○ 局公式Xによる情報発信 ・ 令和7年4月投稿 43 件、R7.4 末現在フォロワー数 10,613 人 ・ 令和6年度は投稿 349 件、R7.3 末現在フォロワー数 10,506 人	○ 教育旅行誘致 北海道及び東京で開催される教育旅行誘致説明会への参加及び旅行会社訪問によるプロモーションを実施（8月） ○ 秋田県際連携 鹿角・盛岡広域エリア観光デジタルスタンプラリーの実施（7/18～11/4） ○ 観光、食、伝統文化の情報発信 引き続き観光イベント情報を中心に盛岡広域エリアの魅力を発信

取組状況	今後の展開
多様な雇用の創出、労働環境と所得の向上 【D X技術の推進等による農業分野の振興】 ○ 園芸のD Xの推進 A I を搭載した切花りんどう自動選別機の普及推進に向けた需要期対応品種（盆・彼岸）での検証及び実演研修会の開催 地経費 ○ 畜産のD Xの推進 地経費 ・ 優良雌牛群の整備に向けた、ゲノミック評価に基づく母牛の選抜及び高能力牛産子及び保留候補牛のゲノミック評価の実施 ・ ゲノミック育種価の活用方法、飼養管理技術向上のための研修会開催  ゲノミック評価の高い雌牛 優良な雌牛集団への改良 市場価格が高い子牛 【取組状況】 (6年度実績) ○ 極晩生品種（9月下旬～10月開花）を用いた切花りんどう自動選別機の検証では、平均処理精度は88%であり、実用性を確認 ⇒ 7年度は、盆・彼岸品種での実用性を検証 ○ ゲノミック評価の結果、出荷価格に大きく影響する3形質（枝肉重量、ロース芯面積、脂肪交雑）すべてが優れている個体を把握（46頭中9頭）。 ⇒ 7年度は、生まれた子牛の能力を分析し、評価結果を活用した改良の有効性を検証	○ 園芸 ・ 切花りんどう自動選別機の盆・彼岸向け品種での判別精度の検証（7～9月） ・ 生産者を対象とした実演研修会の開催（7～9月、各月1回） ○ 畜産 ・ ゲノミック育種価が判明した雌牛の子及び、評価未実施の繁殖雌牛を対象とした評価の実施（50頭、7月～予定）

令和 7 年度 県南広域振興局管内における人口減少対策について

現状と課題

【県南広域圏の現状と課題】

- 市町の範囲を超える広域的な生活圏が形成されており、移住者等を対象に、管内市町と連携した広域的な受入態勢の整備や、移住後のフォローアップ体制の構築が必要。また、新規就農者の多様化する相談内容に対応するなど、就農後のフォローアップの強化が必要。
- 県外の誘致企業関連地域からの転勤者は、土地勘がなく勤務先と社宅を往復するだけで、地域との接点が少ないため、転勤による転入者を対象に、地域と関わり、地域の魅力を知る機会を提供する取組が必要。
- これまでは首都圏への若年者の流出対策を実施してきたが、県内に進学先がないなどの理由で大学進学者の約 7 割が県外へ進学しており、特に、進学期の仙台圏への転出傾向が強いことから、仙台圏の若者を対象に、関係人口創出に向けたアプローチの強化が必要。また、岩手県に関心のある「移住関心層」を対象に、U・I ターンの促進や、新規就農者の地域内への呼び込み強化が必要。
- 大型企業誘致や工場増設などの産業集積の進展によって求人数が高止まりしており、児童・生徒を対象に、地域企業を理解する機会を確保し、将来のUターンも見据えた職業意識・地元志向の醸成を図ることが必要。
- 少子化による新規高卒就職者の減少により、多くの業種で人手不足が深刻化しており、地域一体となったジェンダーギャップの解消、企業を対象とする採用力向上の支援や、就業者を対象とする定着支援の取組が必要。

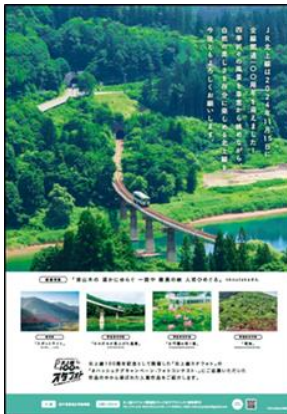
県南広域振興局では、令和 7 年度、圏域首長懇談会において「若者・女性に選ばれる職場・地域づくり」をテーマに意見交換を行うほか、一関市の「いわて若者カフェ」においてアンコンシャス・バイアスの解消に向けたイベントを実施。産業が集積し仙台圏と隣接する県南広域圏の地域特性を踏まえた「流入促進」と「流出抑制」による社会減対策や、結婚支援団体等と連携した少子化対策に引き続き取り組むとともに、小規模町村への伴走支援（西和賀町）に取り組む。

取組状況	今後の展開
1 自然減対策 ○ 管内市町等との連携による対策会議 ・ 県南広域圏首長懇談会 (R6.5.28) 「女性がよりいきいきと生活できる地域について」をテーマに、女性の社会減対策に関する各市町の現状・課題、広域的な取組による課題解決の方向性等について意見交換。 ⇒田舎のコミュニティでは、親世代において男性優位の古い家族観があり、変革が必要との認識を共有。 ⇒婚姻数の減少に対し、婚活パーティなど出会いの場の創出を広域で実施するよう求める発言あり。 ↓ 令和7年度に、県南広域で取り組む事業を新たに創設 (地域経営推進費で実施) ・ 県南広域圏結婚支援関係団体等連絡会議 市町・関係団体等が実施している結婚支援活動の情報を共有。県南局独自の結婚支援事業について検討。 (R7も継続実施) 	1 自然減対策 (1) 県南広域での新規事業 ▶ 【南いわて出会い創出事業】 「推し」(趣味、興味、関心)や「地域資源」(管内企業商品、施設、自然等)を活用した新たな出会い創出イベント 【新規】 ▶ 【いわて若者カフェとの連携(ジェンダーギャップ解消)】 アンコンシャス・バイアスをテーマに、若者・女性が地域課題解決を図り交流する場を創出(若者女性協働推進室と連携) (2) 管内市町等との連携による対策会議 ・ 県南広域圏首長懇談会 (R7.7.4 西和賀町で開催予定) 「若者・女性に選ばれる職場・地域づくり」をテーマに、アンコンシャス・バイアスなど女性の域外流出の要因となっている課題とその解決に向けた意見交換を実施。

取組状況	今後の展開
2 社会減対策（ア 流入促進 ～移住、U・Iターンの促進～） ＜移住者向け＞ (1) 管内市町間における移住相談・受入態勢の連携強化による移住者のフォローアップ体制構築（管内市町との連携で実施） - 管内市町移住担当者が参加する移住定住推進分科会を計6回開催し、ワークショップ等により連携を推進。 - 各市町の人口減少に係る課題感やニーズを把握するため、特命課長の訪問による市町担当者ヒアリング（7月）、企画推進課長及び企画指導監の市町部課長訪問による意見交換（11月）を実施。 (2) 県南圏域移住者等交流会〔広域振興事業〕 - 圏域内の移住者同士がつながりを形成し、地域のハブ役となるカフェ店主や地元ガイドなどと出会う交流会を開催。（4市町（一関市、西和賀町、奥州市、遠野市）、計36名参加）。 - 移住定住推進分科会での共有を契機に、奥州市単独でも同様の移住者等交流会を実施（13名参加）。 (3) 農業の多様な相談内容への対応力向上に向けた勉強会の開催 - 地域の就農支援システムにより新規就農を一体的に支援。〔地域経営推進費〕 ＜転勤による転入者向け＞ ○ ワーケーション事業〔広域振興事業〕 - 関係人口・交流人口の拡大に向けた誘致企業との連携によるワーケーションを促進。 - R5年度からキオクシア岩手株（北上市）の社員及び家族を対象に、実証事業を実施。（R5：休暇型、R6：業務型ワーケーション）	2 社会減対策（ア 流入促進 ～移住、U・Iターンの促進～） ＜移住者向け＞ ▶ 【県南圏域移住者等交流会】（継続） - 移住者等同士がつながり地域コミュニティでいきいきと暮らすとともに、転勤等で転出しても関わり続けてもらうことを目的に開催。 - 昨年度4市町で実施した成果をもとに、7年度は、残る4市町（花巻市、北上市、金ケ崎町、平泉町）で実施。  【奥州市での移住者等交流会の様子（R6）】 ＜転勤による転入者向け＞ ▶ 【ワーケーション事業】（継続） - 県南地域の観光施設や飲食店等15社が協力。誘致企業には「社外研修＋食体験」が受け入れやすいことが実証されたもの。 「南いわて型ワーケーション」の確立に向け、実証事業で利用した受入施設等に対し、アドバイザーを派遣。 - ものづくりネットワーク総会等での周知や企業訪問を実施。 - キオクシア岩手株とは、情報交換やフォローアップにより継続して支援を行い、他企業への展開を促進。  【農家レストランを活用した社外研修】

取組状況	今後の展開
<仙台圏若者向け> ○ 宮手圏つながりカレッジ〔広域振興事業〕 ・仙台圏と県南圏域との近接性、若年層の転出入に着目し、仙台圏在住の大学生等を対象に、関係人口の創出、つながりを強化。 ・南いわてをフィールドとするワークショップや交流会を実施するとともにオンライン情報交換スペースを構築。 ・令和元年度から令和6年度までに、東北学院大学・宮城大学を中心に、102名（うち岩手県出身者28名）が本事業に参加 ・令和6年度には、チャットツール「Slack」を活用したオンラインコミュニティスペース「南いわてつながる～む」を創設 ・事業実施後、多くの参加者が現在でも県南8市町との関係を継続し、岩手県への移住・定住の例も出ている。 <その他潜在的移住者向け> (1) 首都圏等の在住者を対象とするU・Iターンの促進に向けたオンライン併用セミナーを開催〔広域振興事業〕【管内市町と連携】 (2) 伝統工芸体験等を活用した大学生等受入体制を構築〔地域経営推進費（県事業）〕【管内市町と連携】 (3) 就農希望者を地域内に呼び込む仕組みづくりを実証〔地域経営推進費（県事業・市町村連携枠）〕【一関市と連携】	<仙台圏若者向け>  【仙台圏大学生の県南8市町でのフィールドワークの様子】 ▶ 【宮手圏つながりカレッジ】（継続） ・仙台圏の大学生を対象に「担い手不足」といった地域課題を共通テーマに、地域産業・文化・伝統・教育などの分野で、管内8市町で活動している者（キーパーソン）とのフィールドワークを通じて関係性を深める取組を実施（東北学院大学と共催）。 ・9月には仙台市で成果発表会を実施するほか、「Slack」の継続活用や、県南出身の仙台市在住の起業家等を招いた対面での交流会を実施。 <その他潜在的移住者向け> (1) 管内市町のニーズを踏まえ、仙台圏在住者を対象としたU・Iターンの促進に向けたセミナーを開催。【一部新規】 (2) 就農希望者への情報発信の強化に向けてウェブコンテンツ等の内容を充実。（継続）【一関市と連携】  【動画コンテンツ】  【一関市ウェブサイト】

取組状況	今後の展開
2 社会減対策（イ 流出抑制 ～地元定着の促進） <児童・生徒向け> (1) 「いわて県南広域企業ガイド」やSNSを活用し生徒・保護者等に対して地元企業の情報を提供。〔広域振興事業〕 (2) 管内の高校生を対象とした地域企業展示イベントへの見学を支援。〔地域経営推進費〕 (3) 高校生等（進学希望者を含む）への地域企業の理解促進と地元志向の醸成を目的とした職業意識・地元志向のセミナー及び企業情報ガイダンスを開催。〔広域振興事業〕 (4) 北上川流域ものづくりネットワークとの連携により小中学校等のキャリア教育（工場見学・出前授業）〔地域経営推進費〕 <企業・就業者向け> (1) 地元企業と高校との情報交換会「企業と教員との意見交換会」を開催。 (2) 就業支援員等による就職や職場定着を支援。 (3) 多様な相談内容への対応力向上に向けた勉強会を開催、各地域の就農支援システムにより新規就農を一体的に支援。〔地域経営推進費〕【一関市との連携で実施】 (4) 若い林業従事者等の定着に向けた技術指導及び研修会を開催。	2 社会減対策（イ 流出抑制 ～地元定着の促進） <児童・生徒向け> ▶ 児童・生徒数が減少を続ける中、大型企業誘致や工場増設などの産業集積の進展によって求人数が高止まりしていることから、管内市町や企業と連携し、地域企業を理解する機会を確保し、将来のUターンも見据えた職業意識・地元志向の醸成を図る取組を実施。 (1) ものづくり企業における工業系高校の文化祭等への企業紹介ブース出展支援【新規】 ※ 県南管内だけでなく全県の工業系高校に照会し、受入の同意のあった高校に対し実施 【工業系高校文化祭等への企業紹介ブース出展イメージ】 (2) 建設業への入職・定着促進支援を目的とした小中学生対象の体験学習の開催支援 <企業・就業者向け> ▶ 少子化による新規高卒就職者の減少により、多くの業種で人手不足が深刻化。地域一体となったジェンダーギャップの解消、企業を対象とする採用力向上の支援や、就業者を対象とする定着支援の取組が必要であり、左記(1)～(4)の取組を継続して実施。

取組状況	今後の展開									
3 小規模自治体（西和賀町）支援 (1) 地域経営推進費による支援 < 6 年度 市町村事業 > <table><tr><th>事業名</th><th>事業内容</th><th>交付決定額</th></tr><tr><td>地域商社推進事業〔通常枠〕</td><td>西和賀産業公社による地域資源を活用した商品開発、首都圏・仙台圏への販路拡大等を支援する。</td><td>3,333千円</td></tr><tr><td>地域公共交通活性化推進事業〔小規模町村支援事業枠〕</td><td>町民バスのA I オンデマンド交通構築により利便性の向上と運行の最適化を図る。</td><td>3,333千円</td></tr></table> < 6 年度 県事業 > ・ JR北上線の利用促進 全線開通100周年を記念し、沿線市町との連携による情報発信等の事業を実施 【西和賀町、北上市との連携】 ・ メディアによる地域の魅力発信 タイのタレントを県南地域に招き、タイのテレビ番組において西和賀町を含む県南圏域の魅力を発信   【JR北上線利用促進ポスター】 【タイのタレント ニルットシリチャー氏】 (※YouTubeで配信中) ※ このほか、いわてグラフ 9月号「このまちが好き」にて、県立西和賀高校の生徒による西和賀町の魅力を伝える記事を掲載 	事業名	事業内容	交付決定額	地域商社推進事業〔通常枠〕	西和賀産業公社による地域資源を活用した商品開発、首都圏・仙台圏への販路拡大等を支援する。	3,333千円	地域公共交通活性化推進事業〔小規模町村支援事業枠〕	町民バスのA I オンデマンド交通構築により利便性の向上と運行の最適化を図る。	3,333千円	3 小規模自治体（西和賀町）支援 (1) 地域経営推進費による支援 < 7 年度 市町村事業（小規模町村支援事業枠） > ・ 西和賀高校魅力化支援事業【新規】 ユキノチカラプロジェクトと連携し、西和賀高校の総合的探究の時間のカリキュラムとして「魅力発見ラボ」を拡充  【西和賀高校 × ユキノチカラ「魅力発見ラボ」】 ・ 地域商社事業人材育成等事業【新規】 地域商社推進事業の受託者である株式会社西和賀産業公社に対して、コンサルを通じた人材育成を実施 < 7 年度 市町村事業（通常枠） > ・ 地域商社推進事業（継続） 地域商社（西和賀産業公社）が行う地域資源を活用した商品開発の推進やE Cサイトを活用した販路拡大等を支援  ふわふわもちもち わらび餅を好きなだけ 贅沢に！ 【世界一長い？ わらび餅の販売】
事業名	事業内容	交付決定額								
地域商社推進事業〔通常枠〕	西和賀産業公社による地域資源を活用した商品開発、首都圏・仙台圏への販路拡大等を支援する。	3,333千円								
地域公共交通活性化推進事業〔小規模町村支援事業枠〕	町民バスのA I オンデマンド交通構築により利便性の向上と運行の最適化を図る。	3,333千円								

取組状況	今後の展開
3 小規模自治体（西和賀町）支援 (2) 一般国道107号（大石地区） ▶ 災害復旧工事の令和8年度事業完了に向け、トンネル築造工事や橋梁上部工架設等を実施 【西和賀側 橋梁架設の基礎設置状況（R6.12）】 【北上側 トンネル坑口付近（R6.11）】	3 小規模自治体（西和賀町）支援 (2) 一般国道107号（大石地区） ▶ 令和7年冬前までの供用を目指し引き続き工事を推進。トンネルは北上側から掘削、西和賀側から側溝設置などの同時作業により工期を短縮 【西和賀側 橋梁架設完了(R7.4)】 【西和賀側 側溝施工状況(R7.5)】 【北上側 現道のシェッド撤去完了(R7.5)】 (3) 町が推進するプロジェクト等への局内連携による支援 ▶ 西和賀町が推進するまちづくり等のプロジェクトの推進にあたり、人口減少対策の特命課長が県南広域振興局内のハブ役となり、農政、土木等部局と連携し、プロジェクトが円滑に進むよう必要な調整を実施

取組状況	今後の展開
1 自然減対策 I 少子化対策の強化の3つの柱 1 有配偶率の向上（結婚支援） 結婚を望む男女への出会いの機会等の支援 ① 三陸地域の観光資源等も活用した婚活イベントの開催 （釜石、宮古、大船渡地域各1回、参加者75名） ② “いきいき岩手”結婚サポートセンター（i-サポ）周知 （R7.3月末時点 沿岸圏域 i-サポ会員登録者数763名）  婚活イベント（宮古市）  事前セミナー（宮古市）  2 有配偶出生率の向上（妊娠・出産・子育て支援） 市町村と連携した妊産婦への子育て支援等 ① 「ママサポBOOK」の妊産婦への配付（釜石・大船渡管内）、市町村と 連携した子育て支援（R6年度ママサポBOOK配付部数 215部） ② 「いわて子育て応援の店」協賛店の拡充（R7.3.31時点 279店） 3 女性の社会減対策 沿岸圏域における働き方改革の推進 女性や若者に魅力ある雇用・労働環境づくりを進めるため、管内企業等が参集する会議や企業訪問での制度周知等により、「いわて働き方改革運動」、「いわて女性活躍企業等認定」、「いわて子育てにやさしい企業等認証」の普及活動を強化	○ 結婚を望む方への出会いの機会等支援 ・ さんりく結婚応援支援事業 地経費（市町村連携）（保健福祉環境部、宮古・大船渡保健福祉環境セ） ・ 沿岸圏域に特化した婚活イベントの広域開催 ・ マッチング不成立者等へのフォローアップ（i-サポPR） ○ 市町村と連携した妊産婦等への子育て支援等 本庁予算（保健福祉環境部、宮古・大船渡保健福祉環境セ） ・ いわて子育て応援の店協賛店、いわて子育てにやさしい 企業等認証制度等拡充、企業訪問やセミナー等による啓発 ・ ママサポBOOKの妊産婦配付、市町村と連携した支援  注力 沿岸圏域における働き方改革の推進 いわてさんりく働き方改革推進運動 ⇒ 詳細は次ページ【一部新規】 本庁予算、広域、地経費（保健福祉環境部、宮古・大船渡保健福祉環境セ） ・ 女性活躍認定企業、子育てにやさしい認定企業の取得拡大、働き方改革推進運動の普及拡大 ・ アンコンシャスバイアス解消等、働きやすい環境整備の重要性をテーマに、経営者層・人事労務担当者向けのセミナーを拡充 ・ 圏域事業者の働き方改革に係る取組事例の発信・拡散 ・ 生徒・教員等に対し、圏域事業者の魅力ある雇用環境やその働き方改革への対応等を広く周知（企業見学会等活用） ⇒ 圏域全体で女性・若者の働きやすい環境づくりを底上げ

目的

沿岸広域振興局では、人口減少（社会減）対策の一環として「**いわてさんりく働き方改革推進運動**」を展開しており、特に「いわて女性活躍企業等」の認定への支援を通じ、男女共に**働きやすい職場環境**が整備された『**選ばれる企業**』を増やし、『**働きやすい沿岸圏域**』を実現する。

方策

1 女性活躍認定セミナー等の開催強化

ハローワーク、パソナ東北創生、商工関係団体、県男女共同参画センター等と連携・協働し、圏域企業（経営者層、人事労務、社内リーダー等）への「働きやすい環境づくり」への働きかけ強化

〔企業訪問、各種会合等の多様な場面でのセミナー開催・講師派遣を展開〕

2 女性活躍企業認定取得に向けた伴走的支援

国のえるぼし認定につながる「いわて女性活躍企業等認定制度」取得に向け、企業への支援を強化

3 さんりくウーマン・ネットワークによる活動

様々な分野・地域の関係者をメンバーとするネットワークにより、若手女性等の視点から地域のジェンダーギャップ・アンコンシャスバイアス解消に向けて活動

4 若手職員のワーキンググループによる活動

局内に設置したワーキンググループにおいて、圏域内の市町村や企業等の若手とのつながりのもと、地域の実態把握と、ジェンダーギャップ・アンコンシャスバイアス解消に有効な施策の検討・立案を展開

■圏域の女性活躍企業等 認定数の推移（累計）

	R2	R3	R4	R5	R6
宮古	20	30	37	47	49
釜石	7	12	14	16	23
大船渡	15	22	26	33	39
計	42	64	77	96	111



女性活躍認定セミナー（5/19）
「アンコンシャス・バイアスについて」



若手職員によるワーキンググループ
キックオフミーティング（5/27）

■令和7年度女性活躍認定セミナー等の開催(予定)

開催時期	催事名	主催（連携機関）
5月19日(月)	生衛業経営支援等事業承継勉強会	釜石商工会議所・岩手県生活衛生営業指導センター
5月28日(水)	大槌商工会総会	大槌商工会
6月	女性活躍推進セミナー（宮古）	沿岸広域振興局
6月	経営者セミナー(気仙ものづくり産業人材育成ネットワーク総会)	気仙ものづくりネットワーク
8～2月	ものづくりセミナー人材確保対策講座（2回開催予定）	気仙ものづくりネットワーク
8～9月	釜石・大槌企業交流プラザ	釜石・大槌地域産業育成センター
9～10月	人材確保セミナー	沿岸広域振興局
10～11月	産業革新セミナー	沿岸広域振興局
10～11月	女性活躍認定セミナー	沿岸広域振興局
10～11月	女性活躍認定セミナー	環境生活部・沿岸広域振興局
調整中	事業者向けセミナー	ハローワーク釜石

※上記のほか、沿岸広域振興局主催「女性活躍認定セミナー」の録画を活用したオンデマンド型セミナーも併せて開催予定。

沿岸広域振興局管内における人口減少対策について

取組状況	今後の展開
2 社会減対策	
II 社会減対策の強化の3つの柱	
1 多様な雇用の創出、労働環境と所得の向上 働き方改革の推進や各産業分野における労働環境の向上等	
① 沿岸圏域における働き方改革の推進運動 ・いわて働き方改革運動 (参画企業数 140社(R7.3月末現在)) ・いわて女性活躍企業等認定制度 (認定企業数 111社(R7.3月末現在)) ・いわて子育てにやさしい企業等認証 (認証企業数 33社(R7.3月末現在)) ② 企業の生産性向上の支援 ・PwC Japanグループと連携した支援 (経営指導4回、会計相談20回) ・経営支援アドバイザーによる伴走支援 (7回) ③ 各産業分野における担い手確保 ・小中学生及び高校生を対象とした建設業現場見学会、DX体験学習会 (釜石地区5校、大船渡地区3校、宮古地区2校、岩泉地区1校) ・高校生を対象とした林業体験会や就職相談会での林業就業PR (大船渡地区2校、宮古地区2校、高校生しごとメッセin宮古でのPR) ④ 各産業分野における作業性の向上・スマート農業等の推進 ・漁業「カイゼン」セミナー (10月)、アシストスーツ研修会 (6月)、漁業体験受け入れ (9～10月) ・スマート農業技術調査 (8月)、スマート農業技術研修会 (11月)	○ 産業の各分野における担い手確保 (1) 沿岸圏域における働き方改革の推進[再掲] (2) 建設業若者入職促進事業確保 地経費 (土木部、宮古・大船渡・岩泉土木セ) ・小中高校生を対象に現場見学会・出前講座実施 ・現場見学会・出前講座の中等で、建設業協会支部と連携したICT建設機械を用いた新技術体験学習会の実施 ・R7年6月～10月を中心に、釜石地区6校、大船渡地区3校、宮古地区2校、岩泉地区1校で実施 (3) 漁業経営の持続的可能性強化支援事業【新規】 地経費 (水産部、宮古・大船渡水産振興セ) ・オーダーメイド型漁業体験 (参加者の希望に応じた体験メニュー設定) (R7年6月～R8年2月実施、5/13募集開始、参加者4～5名程度) ・アシストスーツ等の現場試用による導入促進 (スーツ等貸出先最大15件) ・働き手の確保に向けたセミナー開催 (10月以降1回)
   	(4) 職業としての「林業」認知度向上事業【新規】 地経費 (農林部) ・大学生を対象に林業の認知度向上に向けた講座開催 (森林・林業に関する講座及び現場作業体験、R7年7月～9月実施、参加者10名程度) ⇒各分野でも女性・若者の働きやすい環境づくりを底上げ

沿岸広域振興局管内における人口減少対策について

取組状況	今後の展開
2 社会減対策	
II 社会減対策の強化の3つの柱	
2 いわてとのつながりの維持・強化 若者の沿岸圏域への就職やU・Iターン等の移住定住促進	
① キャリア教育による県内への若年層の定着支援 ・ 学生の地元就職・進学者のUターン就職につなげるため、小中高校生を対象とした企業見学会や出前授業等の実施 (企業見学会、出前授業、宮古地域企業ガイドブック作成) ② 大学生と管内企業のマッチング支援による県内外からの人材確保 ・ 大学生の地元就職やU・Iターン就職につなげるため、県内外の大学との意見交換等(訪問:東北学院大学、東北福祉大学、岩手県立大学、岩手大学、講義での企業説明:岩手県立大学宮古短期大学部) ③ 市町村との連携による移住定住の促進 ・ 岩手県立大学地域協働研究(沿岸圏域への移住定住促進に向けた課題の明確化と効果的な情報発信について) ・ 首都圏での移住PRセミナーの開催(東京交通会館・9月) ・ 移住体験ツアー(大船渡～釜石地区・10月) ・ 移住者との意見交換会(6月)、移住コーディネーター交流会(6月) ④ 地域おこし協力隊員任期終了後の地域への定着の推進 ・ 隊員相互の連携・交流ネットワーク形成による活動の充実と任期後の定着促進(研修交流会・11月)	○ 県内へのキャリア教育による若年層の定着支援 ・ 沿岸地域就職促進事業 地経費(産業振興室、宮古地域振興セ) ・ 気仙地域ものづくり人材育成支援事業 地経費(市町村連携)(大船渡地域振興セ) ・ 地元就職、進学者のUターン就職につなげる企業見学会や出前授業等の実施調整 ・ 就業支援員等による学校・企業訪問等  企業見学会(6月～9月) ○ 市町村との連携による移住定住の促進 ・ いわて三陸地域連携移住定住等促進事業【一部新規】 広域(経営企画部、産業振興室、宮古・大船渡地域振興セ) 《情報発信の強化》 ・ 沿岸圏域の「しごと」の情報発信(移住検討者向けガイドブック) ・ 移住体験ツアーの実施(宮古地域・10月) ・ 首都圏での移住PRイベント出展(11月) 《支援体制の強化》 ・ 移住コーディネーター交流会(住田町・6月) ・ 沿岸圏域移住定住促進等連絡会議による連携強化   第1回連絡会議(5/15)
 企業見学会(釜石市)  移住体験ツアー(大船渡市)  地域おこし協力隊交流会 	○ 地域おこし協力隊員任期終了後の地域への定着促進 ・ 沿岸圏域で活動する地域おこし協力隊員定着・定住促進事業 地経費(経営企画部) ・ 沿岸圏域に定着した先輩隊員との交流研修会 ・ 定着・定住に向けた各種支援制度説明会開催

沿岸広域振興局管内における人口減少対策について

取組状況	今後の展開
2 社会減対策 II 社会減対策の強化の3つの柱 3 地域の価値や魅力の発信による交流人口・関係人口の拡大 圏域の地域資源を活用した交流人口・関係人口の拡大 ① クルーズ船寄港に対応した観光誘客・受け入れ促進 - クルーズ船寄港時のおもてなし活動の実施 (宮古港9回、大船渡港2回) - 旅行会社等の訪問によるオプションツアーの提案 (東京都及び神奈川県旅行会社等の訪問) ② SNSを活用した誘客促進 - JR重販に向けた情報発信(秋季観光キャンペーン特設サイト内での周知) - 三陸潮風ストーリーハッシュタグキャンペーン(10月～11月) ③ みちのく潮風トレイル・三陸ジオパークを活用した国内外からの誘客拡大 - FAMツアーの開催による海外旅行代理店等の商品造成の推進 (北米旅行会社、外国向けメディア参加・12月) - みちのく潮風トレイル全線開通5周年に合わせた魅力発信 (みちのく潮風トレイル全線開通5周年記念式典/交流会・6月 トレイルウォーキングイベントの開催・9月、11月)  飛鳥II (9/10)  FAMツアー (12/5)  トレイルウォーキングイベント (11/2～3) 	今後の展開  三陸ジオパークフォトロゲイニング大会in陸前高田 (10/19予定) ○ 地域資源を活用した交流人口・関係人口の拡大 - いわた三陸交流人口・関係人口拡大進事業【新規】 広域(産業振興室、宮古・大船渡地域振興セ) 県北局との相互開催 - みちのく潮風トレイルや三陸ジオパーク等を活用したフォトロゲイニング大会(10/19予定)(JR東日本重点共創エリア指定(R7.9～11)と連動) ○ 地域資源を活用した広域観光の推進 - 地域資源を活用したインバウンド等受け入れ体制整備事業【新規】 地経費(産業振興室、宮古・大船渡地域振興セ) - 宿泊・飲食事業者等を対象とした、インバウンド受け入れ体制整備に受けたセミナー開催 - みちのく潮風トレイルコースマップの作成と配布 (徒歩1時間区間を色分けし、利便性を向上)  マップイメージ ○ 交通ネットワークの活用による誘客 - 広域周遊観光促進事業【一部新規】 地経費(産業振興室、宮古・大船渡地域振興セ) - 沿岸圏域へのアクセス情報や周遊モデルコースを掲載したコンパクトパンフレット(じゃばら式)作成と情報発信 - 万博開催中の関西圏をはじめ、首都圏、仙台圏、北海道における観光プロモーション展開 - JR釜石線沿線広域エリア活性化委員会と連携した観光列車「ひなび」活用による誘客促進  コンパクトパンフレットイメージ ○ 通年での三陸地域活性化イベントの実施・支援 広域・地経費(経営企画部ほか)を活用した多様なイベントの開催

沿岸広域振興局管内における人口減少対策について

取組状況	今後の展開
3 プラスワン等特記事項 Ⅲ 少子化・社会減対策の+1（プラスワン） 1 少子化対策のプラスワン 地域の実情に応じた少子化対策の推進 ①地域課題分析型少子化対策支援事業による伴走支援 少子化対策に取り組む町村に対して、国の少子化対策評価ツールを活用した現状・課題分析を行い、地域の実情に合わせた施策を展開できるよう伴走型支援を実施（対象町村：当管内では、田野畑村）  ワークショップ（10/21） 2 社会減対策のプラスワン 地域の実情に応じた社会減対策の推進 ①市町村との連携による移住定住の促進 沿岸圏域移住定住促進等連絡会議による沿岸局と管内9市町村の連携強化 ②地域経営推進費「市町村連携枠」及び「小規模町村支援枠」の活用等による広域局と市町村が連携した人口減少対策の推進 《市町村連携枠（抜粋）》 ・気仙地域ものづくり人材育成緯線事業（再掲）（大船渡地域振興セ） ・三陸ジビエ産地確立支援事業（農林部） 《小規模町村支援枠》 【田野畑村】・子育て世代応援遊具整備事業 「道の駅たのはた」への幼児用遊具の整備 【住田町】・事業承継支援事業 町内事業者の事業承継に係る調査やマッチング支援  「道の駅たのはた」幼児用遊具	○「さんりくウーマン・ネットワーク」によるアンコンシャスバイアス解消に向けた取組 様々な分野・地域の関係者をメンバーとするネットワークにより、若手女性等の視点から、地域のジェンダーギャップ・アンコンシャスバイアス解消に向けた活動を実施（意見交換、施策提言等） ○若手職員ワーキンググループでの施策検討・立案 局内に設置したワーキンググループにおいて、圏域内の市町村や企業等の若手とのつながりのもと、地域の実態把握とジェンダーギャップ・アンコンシャスバイアス解消に有効な施策の検討・立案を展開  若手職員ワーキング（5/27） ○沿岸圏域における働き方改革の推進[再掲] ○広域局と市町村が連携した人口減少対策の推進 ①少子化対策ミーティングによる市町村少子化対策支援 沿岸広域振興局内の関係部署で構成する少子化対策ミーティングメンバーによる管内市町村との意見交換（6月、9月、2月の年3回実施） ②市町村との連携による移住定住の促進 沿岸圏域移住定住促進等連絡会議による沿岸局と管内9市町村の連携強化 ③地域経営推進費「市町村連携枠」及び「小規模町村支援枠」の活用等 《市町村連携枠（抜粋）》 ・広域周遊観光促進事業（産業振興室） ・三陸ジビエ産地確立支援事業（農林部） 《小規模町村支援枠》 【田野畑村】・交流人口・関係人口拡大に向けた道の駅森林体験施設整備 ・木質バイオマスの地域循環に向けた大学との連携

県北広域振興局における人口減少対策について

本年度の取組状況	今後の展開
1 自然減対策 (1) 地域の実情に応じた少子化対策支援〔拡充〕 ◆地域課題分析型少子化対策支援事業（本庁事業）の実施〔継続〕 令和６年度の久慈地域に引き続き、二戸地域において、地域の少子化の要因について幅広い視野からの的確に把握・分析し、課題解決に向けて 地域の実情に応じた効果的な対応策を検討するためのワークショップを開催 ・事前準備（４/２１）：事業概要説明、ワークショッププログラムの説明 ・ＲＥＳＡＳ研修（４/２４） ・第１回（５/１９）：町村の現状把握、ロジックモデルの設計 ・第２回（６/２）：町村民等へのインタビュー設計  ◆人口減少問題等に関する市町村職員勉強会の開催〔地経費、新規〕 久慈地域では、令和６年度地域課題分析型少子化対策支援事業の検討結果を踏まえ、市町村ごとの課題を検討するワークショップを開催 ・第１回（４/１７）：趣旨説明、令和６年度事業の振り返り ・第２回（５/３０）：客観的指標の確認、着目する地域課題の検討・設定  ◆地域の実情に沿った住宅対策の検討〔地経費、新規〕 若者向け住宅の不足など、管内市町村の実情に沿った住宅対策を講じるため、市町村及び民間企業との調整や必要な調査を実施 ・調査内容の検討	・ワークショップを開催し、具体的な事業化に向けた伴走支援を実施 ・第３回（８/４）：ロジックモデルの精緻化、課題解決方向性の整理 ・第４回（８/２５）：事業アイデアの構想、策定 ・第５回（９/１）：広域検討が必要な事業の洗い出し、県・圏域に対する事業提言の作成 ・第６回（９/２４）：優先検討事業の設定、簡易事業計画の作成 ・ワークショップを開催し、具体的な事業化に向けた伴走支援を実施 ・第３回（７/１８）：地域課題解決の方策検討 ・第４回（７/３１）：セミナー開催 ・第５回（８/２９）：事業アイデアの検討 ・第６回（１０/３）：事業アイデアの策定 ・第７回（１１/７）：広域事業の整理 ・第８回（１２/２２）：市町村事業の設定 ・ワークショップと連携し、課題解決に向けた取組を実施 ・空き家バンクの活用策の確認 ・市町村、民間企業と対応策検討 等

本年度の取組状況	今後の展開
(2) 子育て支援【拡充】 ◆子育て世代の働きやすい職場環境づくりの支援【継続】 子育て支援サービスの向上に向け、「いわて子育てにやさしい企業等」の認証取得の勧奨や「いわて子育て応援の店」協賛店の登録制度を紹介 ・企業訪問等による「いわて子育てにやさしい企業等」の認証取得の勧奨（新規認証取得1社） ・県北局SNSでいわて子育てにやさしい企業に認証された管内企業を紹介 ・企業訪問等による「いわて子育て応援の店」協賛店の登録制度の紹介 (3) 結婚支援【拡充】 ◆出会いの機会の創出【地経費、新規】 本庁の「岩手であい・幸せ応援事業」や市町村と連携し、若者のニーズに応じた多様な出会いの機会創出や有配偶率の向上に繋がる施策を積極的に展開 ・市町村と今後の方向性等について意見交換（4/25～） ・インフォーマルな交流の機会創出の検討 (4) 女性活躍支援【拡充】 ◆働きやすい職場環境づくりの支援【拡充】 ジェンダーギャップの解消や女性や若者等が働きやすい職場環境づくりを支援するための施策を展開 ・企業訪問等による「女性活躍認定企業」の認証制度を紹介 ・県北局SNSによる女性活躍認定企業に認証された管内企業の紹介 ・ジェンダーギャップの解消及び高等教育人材確保に向けた企業の経営層向けセミナーの開催準備 ・国の「地域働き方・職場改革に取り組む自治体」に久慈市が参加	・引き続き、取組を推進 ・意見交換の結果を踏まえ、若年者離職防止施策の枠組を活用した出会いの機会創出など、多様な交流機会創出に展開 ・引き続き、取組を推進 ・企業の経営層向けセミナーの開催（10月頃） ・ジェンダーギャップ解消に向けた情報発信、企業の会議等における啓発 ・久慈市のジェンダーギャップ解消の取組等の支援と横展開の検討



本年度の取組状況	今後の展開
2 社会減対策 (1) キャリア教育の充実【拡充】 ◆進学希望の高校生向けの取組 <u>将来的なUターンの促進を図るため、進学を希望する高校生向けのキャリア講座や企業訪問ツアーの実施【広域、拡充】</u> ・福岡高校でのキャリア講座に係る関係機関との調整 ◆就職希望の高校生向けの取組 地元就職の促進を図るため、就職を希望する高校生向けの職業体験や業種理解促進の取組を実施【広域・地経費、継続】 ・企業人による出前講座の実施 北桜高校（総合校舎）（5/22）、伊保内高校（5/28）、軽米高校（6/12） ・企業訪問ツアーの実施 伊保内高校（6/5）、北桜高校（総合校舎）（6/12） ◆中学生向けの広域的な取組を支援 久慈管内の中学2年生を対象とした<u>キャリア教育の広域展開【地経費市町村事業、新規】</u> ・合同職業講演会キャリアオーケストラの開催に係る関係機関との調整 ・事業所等において社会体験を行う社会体験WEEKの開催に係る関係機関との調整 ◆小中学生向けの取組 久慈管内の小中学生に地元の産業を紹介【地経費、継続】 ・漁業に関する説明会開催に向けた関係機関と調整	・福岡高校カシオペア講座の実施（7～11月） ・高校生の業種理解セミナーの実施（10月） ・久慈高校を含む企業訪問ツアーの実施（12月） ・企業人による出前講座の実施 軽米高校（7月下旬） ・企業訪問ツアーの実施（12月） ・高校生の業種理解セミナーの実施（10月） ・合同職業講演会キャリアオーケストラの開催（10/9） ・社会体験WEEKの開催（11/11～13、18～20） ・説明会の開催



本年度の取組状況	今後の展開
(2) 若者の職場定着【拡充】 ◆地元就職した若年者等の定着支援 早期離職の防止を図り、同世代間のネットワークの構築を図るための取組を推進 [広域・ゼロ予算、継続] ・ <u>新規学卒就職者を対象としたフレッシュャーズ・カフェの開催に向けた準備</u> ・ <u>2年目から3年目までの若手社員を対象としたReフレッシュャーズミーティングの開催に向けた準備</u> ◆アパレル産業に関する認知度向上 インターンシップの受入支援、教育機関と連携した認知度向上の取組を推進 [広域・地経費、継続] ・ 高校等への北いわてアパレルインターンシッププログラム事業の周知 ・ 北いわてアパレル産業振興会と北桜高校との連携に係る調整	・ <u>フレッシュャーズ・カフェ開催 (7/1)</u> ・ <u>Reフレッシュャーズミーティング開催 (10/22)</u> ・ それぞれの取組の成果、アンケート結果の企業へのフィードバック (ジェンダーギャップ解消、働き方改革を含む) ・ インターンシップの受入支援 ・ 管内アパレル企業による北桜高校への技術指導等支援 ・ 管内アパレル企業の認知度向上及び人材確保に向けたPR動画作成



本年度の取組状況

(3) 広域的な移住定住の推進及び情報発信の強化〔拡充〕

県と市町村で構成する「県北地域移住定住推進プロジェクトチーム」において、各種の広域的な移住定住の取組を推進

◆県北地域を体感できる広域移住体験ツアーの実施〔広域、拡充〕

広域連携のシナジー効果による県北地域の多彩な魅力を発信するため、広域移住体験ツアーを実施

- ・先輩移住者との交流会など、参加者が地域での暮らしをより具体的にイメージできる機会を創出する仕様の作成

◆大規模な移住イベントへの出展〔広域、継続〕

新たな移住希望者層へのアプローチの機会である移住イベントへ出展し、具体的なライフスタイルの魅力を発信

- ・THEいわてDAYへの出展に向けた連絡調整
- ・ふるさと回帰フェアへの出展に向けた準備

◆北いわての魅力の発信〔地経費、拡充〕

移住希望者へ「北いわての暮らしや魅力」を具体的にイメージできるガイドマップを作成し、情報発信を強化

- ・構成内容の検討、コンテンツの収集

◆管内自治体職員の移住・定住施策の企画力向上〔広域、継続〕

先進自治体等の専門家から、最新のトレンドや政策動向を学び、管内市町村の移住定住施策の企画力向上を図るための取組を推進

- ・企画力向上研修会の開催準備

今後の展開



- ・ツアーの実施（10～11月）
- ・ツアーの選考から外れた方を含めた全ての応募者に対する継続的なフォロー

- ・THEいわてDAYに出展する管内市町村の情報発信を支援（8月）
- ・ふるさと回帰フェアにおいて「北いわて」の魅力を広域局が一体的に情報発信（9月）

- ・ガイドマップを活用した全国的な移住イベント等での情報発信
- ・SNSでの発信への展開

- ・企画力向上研修会の開催、企画担当間の交流・意見交換

本年度の取組状況	今後の展開
(4) 移住者定着支援【拡充】 ◆地域おこし協力隊等の定着支援【広域、拡充】 地域おこし協力隊など新たな地域の担い手の定着支援の取組を推進 ・任期後の進路を見据えたフォローアップ研修等の開催準備	・フォローアップ研修の実施（9月） ・地域住民の理解促進、協力隊同士の連携強化のための活動報告会を開催（2月）
(5) 交流人口・関係人口の拡大に向けた広域観光等の推進【拡充】 ◆北いわてアドベンチャーツーリズムの推進【広域、拡充】 <u>県北地域が持つ豊かな地域資源とアクティビティを組み合わせた「北いわてアドベンチャーツーリズム」を推進</u> ・久慈エリア：周遊ルートの造成の検討、実証調査 ・二戸エリア：造成コースの試験販売の検討  ◆八戸圏域への誘客プロモーション等の強化【広域、新規】 <u>歴史的・文化的につながるの深い八戸圏域からの誘客を図り、交流人口・関係人口を拡大</u> ・鉄道を利用したツアー商品の造成の検討 ・鉄道ツアー連動した「北いわての食」関連イベントの開催準備 ・八戸市の大型商業施設での北いわて物産フェアの開催準備 ◆世界遺産「御所野遺跡」を核とした誘客促進、交流の拡大【広域、拡充】 県民や縄文文化ファンに「北いわての縄文」の魅力を発信 ・一戸町との共催による縄文遺跡の体験型イベント「御所野縄文WEEK」の実施準備 ・<u>県北地域の駅や観光施設等で配布する北いわての縄文遺跡や出土品に関する「いわて縄文カード」の作成準備</u> ◆北いわて・お城コンシェルジュを活用した情報発信【広域、継続】 <u>北いわて・お城コンシェルジュに委嘱した久保井朝美さんの発信力等を活かした県北地域の歴史・文化資源に係る情報発信の強化</u> ・久慈城との関係なども含めた広域での発信情報の検討 ・関係機関（九戸城イベント実行委員会等）との調整	・久慈エリア：分科会の開催、ルート案の作成 ・二戸エリア：分科会の開催、<u>造成コースの試験販売</u> ・ツアー商品の販売 ・八戸市等の関係機関と連携した県北圏域の認知度の向上に向けたプロモーションの実施 ・御所野縄文WEEKの実施 ・<u>縄文カードの作成、配布</u> ・九戸城まつり、お城EXPO等での情報発信 ・歴史文化を活用した研修会の開催